

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：32401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00710

研究課題名(和文) 日本中世・近世における若狭湾沿岸海村の生業および交易・交流に関する総合的研究

研究課題名(英文) Livelihoods, Trade, and Exchanges in Wakasa Bay Seaside Villages in Medieval and Early-Modern Japan

研究代表者

長谷川 裕子 (Hasegawa, Yasuko)

跡見学園女子大学・文学部・教授

研究者番号：20635122

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本中世・近世において複合的な生業を有する海村の特質と、それに伴う近隣村や都市との交易・交流・負担の実像を若狭湾沿岸の海村を素材に解明することを目的として、福井県美浜町(日向・早瀬・久々子)、福井県南越前町(河野・今泉)、福井県小浜市(田烏・志積・矢代・仏谷)地区を対象に歴史学・地理学・民俗学的なフィールドワークを実施し、当該地域における生業の実像と地域社会との軋轢・交易の実態解明に取り組んだ。また、現存する若狭湾沿岸海村関係史料の所在を確認しつつ、閲覧・撮影作業を進め、若狭湾沿岸海村史料目録を作成し、その成果を広く公開するために「若狭湾沿岸海村研究」のホームページを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、歴史学・地理学・民俗学という、学問分野の枠組みを越え、協同して同じ対象を各分野の研究視点から追究することにより、若狭湾沿岸海村の生業や人びとの営みについて立体的・多角的に復元することが可能となった。また、これまで本格的な調査が入っていなかった旧海村における現地調査を実施したことにより、廃村となった村の遺構や習俗を確認することができた。その点に研究の学術的意義がある。また、若狭湾沿岸海村やその周辺地域に関する古文書の所在調査や撮影作業を実施し、その情報を本研究のホームページに掲載することにより、本研究の成果を広く地域社会に共有することが可能となった。その点に本研究の社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：By studying the cases of seaside villages near Wakasa Bay, this study elucidates the characteristics of seaside villages with complex livelihoods in medieval and early-modern Japan, as well as the reality of their trade, exchanges, and burdens with nearby villages and cities. I engaged in historical, geographic, and ethnographic research in the areas of Mihama Town, Fukui Prefecture (Hyuga, Hayase, Kugushi), Minamiechizen Town, Fukui Prefecture (Kono, Imaizumi), and Obama City, Fukui Prefecture (Tagarasu, Shitsumi, Yashiro, Hotokedani), exploring the reality of livelihoods in these areas, including the friction and trade with regional society. Moreover, I investigated the whereabouts of historical sources related to seaside villages near Wakasa Bay to read and photograph them. This allowed me to compile a catalogue of historical sources on Wakasa Bay seaside villages and create a website called “Research on Wakasa Bay Seaside Villages” to broadly disseminate my findings.

研究分野：日本史

キーワード：日本中世史 日本近世史 地域史 海村史 山村史 漁業史 交易史 交通史

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本中世・近世の村研究は、1980年代後半以降、村の生業や村人の生命維持のために、村が武力を行使していた実像を描き出す「自力」の村論として展開した。そこでは、村内に存在する様々な生業の違いや対立関係、階層を越えた村の結束の有り様と、それを可能にした隣村との用益相論の実態解明が課題とされた。また1990年代以降、中世から近世前期における慢性的飢饉状況と、その下での人びとの生存問題について検討が進められ、セーフティネットとしての村や地域社会の多様性が明らかにされつつある。しかし、村外部との関係によって形成される村の特質を捉えてきた一方で、村内部の複合的な生業が村人たちの関係や村の構造そのものにかなる規定性を与えていたのかという問題は見過ごされがちであった。他村に対する村全体としての動向と、生業の多様性がもたらす村内部の諸関係を、いかに結びつけて中世・近世の村の実像を描き出すかが現段階での村研究の課題の一つとなっていた。

(2) 生業論では、漁業のみならず、農業・林業・海運業・商業などの複合的な生業を組み合わせながら生活を営んでいた海付村落の特質が追究されている。生業論の進展により、海付村落を漁業や塩業の面のみで単に「漁村」と規定するのではなく、複合的な生業のあり方に留意して「海村」と呼称するようになってきている。確かに近年では、農村研究においても村や村人たちの生活が複合的な生業で成り立っていたことは解明されている。しかし、村の生業の様相がより直接的に村構造を規定すると考えられるのはやはり海村である。海村を軸に、海や川、山の資源という自然環境に村が対応していかなる社会・経済・政治を創りあげていたのかという問題の解明は、まだ十分に果たされていなかった。

(3) 若狭湾沿岸の海村地域は、他に例をみないほどの質と量を誇る古文書が現存している希少な素材である。その豊富な古文書をもとに、若狭湾という地域的な広がりをもつ空間軸において生業パターンの違いや変遷を長期的な時間軸で追究でき、しかも漁業図などの絵図・地図史料も豊富に現存し、地名や地形などの空間的な検討による生業の有り様を検討できる数少ない地域である。しかし、文書所蔵者の代替わりや、度重なる市町村合併等により、そうした貴重な古文書の所在が曖昧化しており、所在調査と撮影作業が喫緊の課題となっていた。

2. 研究の目的

(1) 江戸時代の若狭湾沿岸の海村地域の様相を示す絵図として、寛文5年（1665）の「若狭湾漁場図」（「渡辺六郎右衛門家文書」『福井県史』資料編別巻絵図地区図所載）が現存しており、江戸時代前期には若狭湾沿岸に居住する人びとのあいだに、「若狭湾地域」と呼びうる地域認識が共有されていたことが知られている。本研究では、江戸時代前期には形作られていた若狭湾沿岸の海村世界が、海村の複合的な生業をめぐる交易・交流や軋轢を通じて、中世から近世にかけてどのようにして形成され、変遷してきたのかという問題について分析し、若狭湾沿岸海村地域の特質について解明することを目的とした。

(2) 若狭湾沿岸海村には、寛喜3年（1231）の年紀をもつ古文書を筆頭に、中世から近代までの古文書が数十万点現存するという、他に例をみない地域である。これらの古文書は、『福井県史』や『小浜市史』などの自治体史編纂事業によって所在調査、撮影作業が行われ、それらの成果は福井県文書館に集約されているが、今現在所在不明となっている古文書もあり、また自治体史編纂事業で未調査の古文書もまだ数多く残されている。本研究では、若狭湾沿岸海村とその周辺地域に関係する古文書の所在を確認しつつ、可能な限り撮影作業を実施し、目録を作成することを目的とした。

(3) 本研究が実施した調査対象地における歴史学・地理学・民俗学的な聞き取り調査や古文書の悉皆調査、および石造物調査等によって得られた新たな知見と、本研究で撮影した古文書のデジタル画像や文書目録を広く公開するため、東京大学史料編纂所および福井県教育委員会や福井県文書館、福井県立歴史博物館、福井県立若狭歴史博物館など、福井県内の文化財行政に関わる機関と連携し、公開のためのプラットフォームを構築することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 若狭湾沿岸海村のうち、中世以来の古文書を多く残す地域を重点的に取り上げ、歴史学・地理学・民俗学的なフィールドワークを行い、現存する古文書から読み取れる情報を補うための聞き取り調査を実施した。特に、古文書のなかにみられる、生業をめぐる紛争地の地名や漁場の場所とその地形的特徴等について、また各村における主要な生業とその方法や慣習、使用する道具、生業で得られる産物の交易方法、生業に関係する祭礼等についての聞き取り調査を行い、中世から近世における海村の生業とその交流・軋轢の実像を復元した。

(2)現存する若狭湾沿岸海村とその周辺地域の古文書について、東京大学史料編纂所・福井県教育委員会と協力しながらデジタル撮影を実施した。自治体史編纂事業において未撮影の古文書群については、中世から近世の古文書を悉皆的に撮影し、それ以外については、基本的に中世から近世前期(1700年)までを対象に撮影を行った。撮影した文書については、順次文書目録を作成するが、その際には『福井県史』編纂の際に撮影されたマイクロ写真やその際に作成された文書目録と対照させつつ、検索しやすい目録にするよう留意した。

(3)若狭湾沿岸海村に点在する石造物の形状的特徴や石の材質とその使用範囲等について悉皆的に調査を実施し、石の流通域からみえてくる地域社会の交易・交流関係、および日本海流通の実像を復元した。また、石造物の点在する位置情報から、若狭湾沿岸海村やその周辺地域の村々の空間構造の特徴や信仰の有り様を分析した。

4. 研究成果

(1)本研究は、コロナウイルス感染症流行拡大の影響を受け、本来4年間の予定であった研究を5年間に延長して継続し、福井県美浜町(日向・早瀬・久々子)、福井県南越前町(河野・今泉)、福井県小浜市(田鳥・志積・矢代・仏谷)各地区において現地調査を実施し、各地区における生業の方法や習俗、祭礼と、生業の場の地名と地形的特徴、製造をめぐる地域社会の軌轢と交流について、現存する古文書を補完するための所見が多く得られた。特に、古文書だけでは分からなかった地名の漁場やその地形的特徴が確認されたことにより、村ごとに主要な生業が異なる理由や近隣の村々との軌轢が生じる原因について、より立体的に復元することが可能となった。

(2)現地調査の過程で、自治体史編纂事業において未調査であった古文書や絵図等が発見されたため、それらの史資料については悉皆的に撮影を実施し、目録を作成した。特に、各地区において守られてきた村の区有文書については、近代に至るまでの膨大な文書類を伝来していることが多く、近代の実態から前近代の生業の有り様と、その変遷を確認する必要から、一部の文書群については近代までの古文書についても撮影を実施した。しかし、近代以降の古文書については今回の研究では調査が叶わず、今後引き続きの課題となっている。

(3)若狭湾沿岸海村および周辺地域の古文書の撮影調査については、東京大学史料編纂所および福井県教育委員会と協力し、福井県内の各地区や個人宅、寺社、および福井県内の博物館・資料館等67ヶ所をはじめとして、福井県外で同地域の古文書を所蔵する各所においてデジタルカメラによる撮影作業を実施した。それにより、これまで自治体史編纂事業等においても未調査・未撮影であった古文書も確認することができたとともに、これまで白黒でしか確認できなかった古文書をカラー画像で鮮明に確認することが可能となった。

(4)本研究において調査・撮影した古文書については、文書群ごとに文書目録を作成した。これまで各自治体が自治体史編纂事業を実施し、その成果をそれぞれに調査・撮影した古文書の目録を作成してきたため、情報が錯綜している感が否めない。本研究では、『福井県史』や『小浜市史』等自治体史編纂事業によって公開されている情報をできる限り記載しながら目録を作成することで、今後の研究の進展に寄与するように努めた。一方で、撮影したすべての古文書群についての目録作成作業はまだ終了していないため、今後引き続きの課題となっている。

(5)若狭湾沿岸海村およびその周辺地域において実施した石造物調査により、中世にさかのぼる古い年紀をもつ石造物が多く確認された。本調査によって、いまだ自治体史編纂事業や文化財調査によって確認されていないものも多く発見された。特に、福井県美浜町の常神半島東岸に位置するくるみ浦では、戦国時代に廃村となって移住した村の遺構が顕著に残され、その一角には、墓じまいしたとみられる石造物群が確認された。くるみ浦は中世海村の遺構として重要であり、生業の有り様を復元するための手がかりとなるものといえるが、くるみ浦へは海からしか入ることが出来ず、波や気候の関係でまだ十分な調査が実施できていないため、今後引き続きの課題となっている。

(6)本研究の成果を広く公開するために、「若狭湾沿岸海村研究会」のホームページを開設した。本ホームページには、「研究概要」「調査・研究」として、本研究の目的やこれまでの調査の概要を記すとともに、本研究で実施した現地調査によって得られた知見や石造物調査の成果、撮影した古文書群の名称とその目録、撮影画像データ、そしてそれらを用いた研究論文等を「データベース」として掲載する予定である。現在のところは、現地調査の成果と撮影した古文書群の名称、文書目録の一部を公開している。撮影画像データなどは、所蔵者等との調整をし、許可を得たものから順に公開していく予定である。また、今後引き続き研究を進め、その成果も順次整理して公開していく予定である。



作成したホームページ

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 市川秀之	4. 巻 14
2. 論文標題 村座再考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 淡海文化財論叢	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 長谷川裕子	4. 巻 18
2. 論文標題 絵図をつくる人びと	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福井大学図書館Forum	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 橋村修	4. 巻 72
2. 論文標題 江戸時代の日記・随筆にみる各地の魚の利用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 73-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 市川秀之	4. 巻 12
2. 論文標題 多賀町佐目の廻り普請 村落運営における当屋制	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 淡海文化財論叢	6. 最初と最後の頁 314-319/314-319
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川秀之	4. 巻 49
2. 論文標題 村落運営における当屋制 滋賀県旧蒲生町大塚の事例を中心にー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間文化	6. 最初と最後の頁 73-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺尚志	4. 巻 864
2. 論文標題 無年季的質地請戻し慣行を再考する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 71-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺尚志	4. 巻 10
2. 論文標題 金原明善と天竜川の水防・治水	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡県地域史研究	6. 最初と最後の頁 14-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野尻泰弘・新井翠	4. 巻 171
2. 論文標題 播磨国林田藩の村々に関する一史料 「地方覚記」の紹介と翻刻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 駿台史学	6. 最初と最後の頁 99-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野尻泰弘	4. 巻 88
2. 論文標題 近世初期における日本海沿岸地域の社会構造と生業	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 31-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川裕子	4. 巻 17
2. 論文標題 いのちを尊ぶ人びと 貞享5(1688)年と元禄2(1689)年、生類憐み令請書雛形から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福井大学附属図書館報 図書館forum	6. 最初と最後の頁 11-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 市川秀之	4. 巻 11
2. 論文標題 東近江市伊庭の社会組織 ~ 在地を中心に ~	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 淡海文化財論叢	6. 最初と最後の頁 237-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川秀之	4. 巻 990
2. 論文標題 近世前期における河内狭山池集水域の開発とその影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 14-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺尚志	4. 巻 990
2. 論文標題 利水と治水からみた明治維新	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋村修	4. 巻 300
2. 論文標題 多様に展開する「生業」研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 市川秀之	4. 巻 46号
2. 論文標題 若狭漁村における女性祭祀と村落組織	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間文化	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡辺尚志	4. 巻 45号
2. 論文標題 上総・下総における旗本知行所と相給村落	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 房総の郷土史	6. 最初と最後の頁 11-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺尚志	4. 巻 334号
2. 論文標題 江戸時代の災害と村人の暮らし	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群馬文化	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋村修	4. 巻 70号
2. 論文標題 近世末期における薩摩藩の御手綱と内之浦の定置網	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要・人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 131-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 春田直紀
2. 発表標題 九州における武家拠点形成の特質 (総括)
3. 学会等名 「武家拠点科研」熊本研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 春田直紀
2. 発表標題 中世地下文書論の方法と射程
3. 学会等名 シンポジウム「中世地下文書論は何を明らかにしたか」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村只吾
2. 発表標題 近世越中における魚介流通に関する一考察 - 局所的地域環境に注目して -
3. 学会等名 第44回北陸都市史学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋村修
2. 発表標題 シンポジウム「食と環境 魚食文化による里海の保全と実践活動」コメンテーター
3. 学会等名 日本民俗学会 第72回年会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋村修
2. 発表標題 江戸時代の沿岸部の疫病の水際対策
3. 学会等名 第180回海洋フォーラム「疫病と海～コロナ禍での海とヒトの関係を考える～」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋村修
2. 発表標題 第42回山桃忌 シンポジウム「柳田國男と「海上の道」パネリスト
3. 学会等名 第42回山桃忌 シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋村修
2. 発表標題 江戸時代の沿岸域・離島における疫病の水際対策 異国漂流者対応、無人島隔離
3. 学会等名 2021年 日韓共同学会議 自然・災害・感染症と民俗（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野尻泰弘
2. 発表標題 近世地域史研究から支配・被支配を考える
3. 学会等名 歴史学研究会2020年度大会近世史部会萬代悠氏支援報告（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋村修
2. 発表標題 魚と海の民俗にみられる「性別」に関する文化
3. 学会等名 韓日共同学会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋村修
2. 発表標題 海の生き物文化—三陸海岸を中心に—
3. 学会等名 生き物文化誌学会気仙沼例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 春田直紀
2. 発表標題 阿蘇でムラの歴史をさかのぼるー立野村についても調べてみようー
3. 学会等名 阿蘇サイエンスカフェ 阿蘇の自然と歴史を温める
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 春田直紀
2. 発表標題 惣村の環境デザイン ムラのなかの森づくりー
3. 学会等名 新琵琶湖学セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市川秀之
2. 発表標題 若狭漁村における女性祭祀と村落組織
3. 学会等名 日本民俗学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋村修
2. 発表標題 近世以降の海辺の多様な利用 - 「遊漁」「海の名所」をめぐる歴史展開ー
3. 学会等名 第61回歴史地理学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋村修
2. 発表標題 干満差に関わる神話・昔話、神話・儀礼・教育
3. 学会等名 2018年日韓共同学会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村只吾
2. 発表標題 近世から明治期にかけての越中国灘浦における漁村秩序
3. 学会等名 越中史談会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計25件

1. 著者名 春田直紀	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 742
3. 書名 環境社会学事典	

1. 著者名 渡辺尚志	4. 発行年 2023年
2. 出版社 たけしま出版	5. 総ページ数 92
3. 書名 小金町と周辺の村々	

1. 著者名 渡辺尚志	4. 発行年 2022年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 344
3. 書名 川と海からみた近世	

1. 著者名 市川秀之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 276
3. 書名 近代天皇制と遥拝所	

1. 著者名 橋村修	4. 発行年 2021年
2. 出版社 西日本出版社	5. 総ページ数 240
3. 書名 海とヒトの関係学 疫病と海（江戸時代における疫病の水際対策）	

1. 著者名 市川秀之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 米原市教育委員会	5. 総ページ数 58
3. 書名 志賀神社華の頭	

1. 著者名 渡辺尚志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 297
3. 書名 生きるための地域史（漁獵分一役請負と海村の対応）	

1. 著者名 渡辺尚志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 246
3. 書名 古文書が語る東北の江戸時代（江戸時代、出羽国村山地方の百姓たち）	

1. 著者名 渡辺尚志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清文堂	5. 総ページ数 237
3. 書名 近世村の生活史（吉野川流域の村の十七世紀）	

1. 著者名 渡辺尚志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 341
3. 書名 相究村落からみた近世社会 続（真忠事件と台方村戸村家）	

1. 著者名 野尻泰弘・渡辺尚志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 351
3. 書名 藩地域の環境と藩政（支配地がの境目争論からみる藩地域）・藩地域の環境と藩政（明治二～三年における松代藩の事件処理過程）	

1. 著者名 稲吉昭彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 貨幣の統合と多様性のダイナミズム（中近世移行期における貨幣使用と相場）	

1. 著者名 長谷川裕子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小径社	5. 総ページ数 289
3. 書名 歴史の中の人物像 二人の日本史 「浅井長政と朝倉義景」（pp.138-146）	

1. 著者名 市川秀之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 479
3. 書名 パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦 「滋賀県下の字誌にみる歴史実践」（pp.194-217）	

1. 著者名 渡辺尚志	4. 発行年 2019年
2. 出版社 草思社	5. 総ページ数 295
3. 書名 海に生きた百姓たち 海村の江戸時代	

1. 著者名 渡辺尚志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 335
3. 書名 日本近世村落論	

1. 著者名 橋村修	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京学芸大学	5. 総ページ数 164
3. 書名 北海道・東北および沖縄・九州を視野に入れた歴史認識の構築と教材開発に関する戦略的研究 「奄美大島・甬島・口永良部島の魚利用」(pp.11-16)	

1. 著者名 橋村修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 264
3. 書名 食と農のフィールドワーク入門 「歴史上の魚に焦点を当ててみよう」(pp.169-176)	

1. 著者名 橋村修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 350
3. 書名 多文化共生社会に生きる 「雑魚」とみなされがちな魚の利用からみた多文化」(pp.170-172)	

1. 著者名 春田直紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 滋賀県立琵琶湖博物館	5. 総ページ数 127
3. 書名 中世惣村の現在 近江国今堀郷故地の現地調査	

1. 著者名 春田直紀、大山喬平、三枝暁子、山内謙、小林昌二、鎌倉佐保、木村茂光、村上絢一、川端泰幸、花田卓司、吉永隆記、谷昇、門井慶介、服部光貞、伊藤哲平、松井直人、上川通夫、山本隆志、海老沢袁	4. 発行年 2018年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 544
3. 書名 古代・中世の地域社会－「ムラの戸籍簿」の可能性	

1. 著者名 春田 直紀	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 329
3. 書名 日本中世生業史論	

1. 著者名 橋村修、新野直吉、石井正己、菊池勇夫、千葉信胤、永井登志樹、小堀光夫、大野眞男、野村敬子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 255
3. 書名 菅江真澄が見た日本	

1. 著者名 小林一岳、蔵持重裕、朝比奈新、渡邊浩貴、根本崇、窪田涼子、松本尚之、深谷幸治、則武雄一、徳永裕之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 306
3. 書名 日本中世の山野紛争と秩序	

1. 著者名 小林一岳、渡邊浩貴、牡丹健一、市沢哲、廣田浩治、徳永裕之、佐藤公美、蔵持重裕、渡邊浩史、山野龍太郎、徳永健太郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 289
3. 書名 南北朝「内乱」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋村 修 (HASHIMURA OSAMU) (00414037)	東京学芸大学・教育学部・准教授 (12604)	
研究分担者	春田 直紀 (HARUTA MAOKI) (80295112)	熊本大学・大学院人文社会科学部(文)・教授 (17401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	市川 秀之 (ICHIKAWA HIDEYUKI) (80433241)	滋賀県立大学・人間文化学部・教授 (24201)	
研究分担者	渡辺 尚志 (WATANABE TAKASHI) (10192816)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授 (12613)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	野尻 泰弘 (NOJIRI YASUHIRO) (70439066)	明治大学・文学部・准教授 (32682)	
研究協力者	太田 まり子 (OOTA MARIKO)	東京大学・史料編纂所・研究支援推進員 (12601)	
研究協力者	窪田 涼子 (KUBOTA RYOKO)	神奈川大学・日本常民文化研究所・職員 (32702)	
研究協力者	村山 卓 (MURAYAMA TAKU)	公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団・調査部整理第二課・主事	
研究協力者	稲吉 昭彦 (INAYOSHI AKIHIKO)	福井県南越前町・観光まちづくり課・学芸員	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	宇佐美 倫太郎 (USAMI RINTARO)	福井県教育庁・生涯学習・文化財課・主任	
研究協力者	大河内 勇介 (OKOUCHI YUSUKE)	福井県立歴史博物館・主査	
研究協力者	川波 久志 (KAWANAMI HISASHI)	若狭歴史博物館・主査	
研究協力者	徳満 悠 (TOKUMITSU HISASHI)	若狭歴史博物館・主査	
研究協力者	橋本 紘希 (HASHIMOTO HIROKI)	福井県立歴史博物館・学芸員	
連携研究者	井上 聡 (INOUE SATOSHI) (20302656)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
連携研究者	小林 一岳 (KOBAYASHI KAZUTAKE) (20298061)	明星大学・教育学部・教授 (32685)	
連携研究者	中村 只吾 (NAKAMURA SHINGO) (40636370)	富山大学・学術研究部教育学系・准教授 (13201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------